

消センだより



～山口県萩市消費生活センター～

他の消センは、今どういう状況なんだろうって疑問に思うことはありませんか？ このコーナーでは、消センの実状をご紹介します。今回は山口県萩市消費生活センターです。

萩市は、毛利藩政期260年間に形成された城下町の佇まいが現在まで継承され、往時の街並みや歴史的遺産が多く残されており、今も「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」となっています。

平成30年の明治維新150年を目前に、本年1月には吉田松陰の妹「文」を主人公に萩市を舞台にしたNHK大河ドラマ「花燃ゆ」の放映・大河ドラマ館がオープンし、7月には、萩反射炉や松下村塾など萩の5資産を含む「明治日本の産業革命遺産」が、世界遺産に登録が決定されるなど、長年にわたり歴史的な遺産を守ってきた成果で、今年は多くの観光客でにぎわっています。



萩市消費生活センター事業の紹介

■ バラエティに富む出前講座

消費者被害を未然防止するため、市民からの申請に応じて「出前講座」を実施しています。離島を含む市内各所で開催していくことを目標として、相談員2名がフル活動し、平成25年度25回、平成26年度32回の実績と件数が増加しているだけでなく、提供できるメニューも増加、更には内容も充実しています。

高齢者を対象とした講座では、振込詐欺の手口について、消費者団体「消費生活研究会」の寸劇や電子紙芝居等を交えてわかりやすく紹介しています。一方で、小・中学生や教員・民生委員向けの講座では、金融学習として、お金の大切さや借金の恐ろしさを伝え、iPadを操作、擬似体験アプリ等を使って、情報モラル教育を行っています。

消費者一人ひとりの行動によってより良い社会となっていく「消費者市民社会」という視点を消費者教育に位置付け、そこに参画する消費者の育成を目指しています。



中学生を対象にした出前講座



離島・大島での出前講座

■多種多様な啓発グッズ

啓発グッズも出前講座同様に、幅広く展開しています。消費生活センターを啓発するパンフレットや、センターの電話番号を掲載したマグネットシートを市報とともに全戸配布しました。加えて、うちわ、クリアファイル、ボールペン、バッジ、など多種多様な啓発グッズを作成、消費者セミナーや出前講座の参加者に配布しています。

■更なる活躍が期待される、消費生活サポーター

萩市では、消費生活モニターを委嘱していますが、任期2年のモニター活動を通じて、消費者問題への関心を深め、満了後も継続して行政とのパイプ役を担っていただける方には、消費生活サポーターをお願いしています。

消費生活サポーターは、センターから提供される情報を活用し、地域における見守り活動を実践、日頃から声かけや、老人会、婦人会へ出前講座の開催を呼びかけ、講座の助っ人を担っていただくなど、思い思いのスタイルで地域の啓発活動を行っております。現在の登録者数は26名まで増えましたが、高齢者の見守りネットワーク等で更なる活躍が期待されます。

■萩にゃん、消費者教育推進大使に就任



「萩にゃん」は、平成25年3月に、消費生活マスコットキャラクターとして誕生、幼児・小学生だけでなく、高齢者にも親しみやすいキャラクターとして、消費者セミナーや出前講座に出演するほか、啓発パンフレットやマグネットに掲載され、消費生活センターをPRしてきました。

消費者教育を推進してきた、これまでの活動が認められて、今年5月に開催された、山口県の消費者月間記念大会において、板東久美子長官から消費者教育推進大使に委嘱されました。

「萩にゃん」です！



委嘱状を交付された「萩にゃん」



出前講座を手伝う「萩にゃん」